

学校教育目標

人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。

教育理念
●全ての子供の学びを保障する。
●全ての子供の命を守る。

○日本国憲法
○教育基本法
○学校教育法
○新学習指導要領
○「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)
○栃木県教育振興基本計画 2025-とちぎ教育ビジョン
○第3次日光市学校教育基本計画

めざす子供像

●思いやりのある子供
●自分から学ぶ子供
●元気な子供

めざす学校像

●安心できる学校
●満足できる学校
●地域とともにある学校

めざす職員像

●教育愛のある教師
●謙虚さのある教師
●自分から学ぶ教師

めざす授業像

●主体的な授業
●対話的な授業
●深い学びのある授業

合い言葉「明るく 楽しく 美しく」

学校経営の方針

児童の実態

●素直で明るい子が多い。
●友達に対し親切である。
●責任感がある。
●自制心が弱い。
教師の願い
●時間を守る。
●整理整頓をする。
●お礼を言う。
●進んで挨拶をする。
●忘れ物をしない。
保護者の願い
●思いやりのある子
●主体的に学習できる子
●明るく元気に活動できる子
地域の願い
●安心・安全な学校
●挨拶、返事のできる子

- 1 ビジョンを明確にし、教職員の参画を得ながら、意図的、計画的、組織的、継続的な教育(指導と支援)を推進する。
- 2 教頭を中心として、情報の共有化を図り、共通行動がとれるよう、見通しをもった、風通しの良い学校運営に努める。
- 3 教務主任を中心に、活動目的の確認と児童一人一人の目標設定、活動後の振り返りと個人の学びを意識した教育活動を遂行する。
- 4 学習指導主任を中心に、学習指導要領理解を深め、教職員の教育力向上や意識改革、授業改善を進めながら学力の向上をめざす。
- 5 児童指導主任を中心に、ルールの共有とリレーションの形成を組織的に進めながら、「相手意識と感謝の心」を育成する。
- 6 体育主任、保健主事、養護教諭、栄養教諭、人権教育主任を中心に、具体的な実践をとおして、「命を大切に作る心」を育成する。
- 7 特別支援教育コーディネーターを中心に、自己理解(自分のよさや特性)と社会的自立をめざした指導と支援を行う。

学校課題：互いに高め合う児童の育成～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり～

本年度の努力点・具体策

	めざす姿(中期目標)	何ができるようになるか(アンケート短期目標値)	何を学ぶか(資質・能力)	どのように学ぶか、実施するか(手立て)
めざす子供像	思いやりのある子供	●自分の好きなところを見つけることができる。(100%) ●友だちのよいところを見つけることができる。(100%)	自己理解力 他者理解力	●認める、褒める、勇気づける学級経営をする。 ●思いやり週間「思いやりの木」を作成する。 ●キャリアパスポートに記録させる。
	自分から学ぶ子供	●友だちと学び合うことができる。(95%) ●自主学習に取り組むことができる。(90%)	探究心	●授業ごとに振り返りをして記録に残させる。 ●家庭と連携し、家庭学習を充実させる。
	元気な子供	●進んで楽しく体を動かすことができる。(95%) ●きまりを守り規則正しい生活をする。(90%)	自立自律力 自己管理力	●体育の充実、共遊の活用を図る。 ●早ね、早起き、朝ごはんの啓発をする。 ●健康管理に関する正しい知識・理解を指導する。
めざす学校像	安心できる学校	●誰かに相談することができる。(90%) ●学校は楽しいと感じることができる。(100%)	行動力	●学期ごとに教育相談を実施し、記録を残す。 ●Q-Uを実施し、その結果を学級経営に生かす。
	満足できる学校	●授業がわかる、できる。(90%) ●成長を感じることができる。(90%)	気付く力	●学期ごとにアンケートを実施する。 ●学期ごとに自分の成長を振り返る時間を確保する。
	地域とともにある学校	●連携した教育活動ができる。(95%) ●地域の方に挨拶・感謝することができる。(90%)	コミュニケーション力	●連携予定の教育活動を教育課程に盛り込む。 ●子供同士が考えを出し合い実行するよう支援する。 ●進んで気持ちのよい挨拶をするよう指導する。
めざす職員像	教育愛のある職員	●子供のよさを認め、伸ばすことができる。(95%) ●子供の特性を理解し、寄り添うことができる。(90%)	見取る力	●一人一人のよさを記録し、学級だより等に掲載する。 ●研修会に参加する。
	謙虚さのある職員	●相談すること、相談にのることができる。(95%) ●他の意見考えを取り入れることができる。(90%)	包容力	●個別の行事計画書を作成する前に相談し合う。 ●教育活動後に反省を行い、次年度の計画を立てる。
	自分から学ぶ職員	●先を見通した教育活動準備をすることができる。(90%) ●学び合い、専門性を高めることができる。(90%)	学ぶ力	●1ヶ月分の予定(週案など)を作成する。 ●教育相談、アンケート調査を定期的実施する。 ●職員座談会をひらく。
めざす授業像	主体的な授業	●課題を粘り強く追究することができる。(90%) ●ゴールを理解することができる。(95%)	見通す力	●めあてを明確にする。 ●毎時間、学習過程を掲示する。(見える化) ●発問を工夫する。
	対話的な授業	●友だちの意見を聴くことができる。(90%) ●分からないことを訊くことができる。(90%)	コミュニケーション力	●「話の聴き方」を配付し具体的な指導と支援をする。 ●「友だちへの訊き方」を配付し具体的な指導と支援をする。
	深い学びのある授業	●授業からの学びを自分の言葉で表現できる。(90%) ●授業からの学びを次時に生かすことができる。(90%)	応用力	●授業の振り返りをする。(期待する姿を明示する。) ●前時からのつながりを意識した課題を設定する



どのように支援するか(どこで)

○自尊心の育成(係活動、発表活動) ○心の安全・安心(教育相談、Q-U) ○情操教育の充実(読書活動) ○自治的能力の育成(学級活動) 児童理解の共通指導と共通支援(児童を語る会) ○タブレット端末の活用(各教科、MIM活用) ○記録の分析と改善行動(全国学テ、とちぎ学テ、NRT) ○挨拶、整理整頓、時間、お礼、忘れ物(日常生活) ○保護者の安心(学校学年だより、HP)

何が身に付いたか(定期評価と段階的改善 PDCA、同項目による子ども中心の評価、数値目標の設定、情報提供と情報公開)

○児童保護者職員のアンケート調査(平均肯定率95%) ○学校評価(短期目標数値クリア90%) ○貸出カード(1人年2枚)
○QU結果(満足度80%以上) ○到達度テスト(全国比-5%以内) ○新体力テスト結果(全国-10%以内) ○HP閲覧(アンケート80%)

何が必要か(教師の資質向上と保護者・地域・関係機関との連携)

○現職教育の充実と同僚性の構築 ○1人1回の研究授業と参加型リフレクションの充実 ○出張報告会の実施と情報の共有
○「目標・成果の自己評価シート」による目標管理と自己評価 ○学級、保健、食育だよりやHP等による情報発信 ○小中連携教育
○授業公開の実施と行事や教育活動への支援依頼 ○地域や関係機関との連携(健全育成会議、大沢ひまわり隊、各自治会)
○地域の教育力を活かした授業・行事・活動(学校支援ボランティアや地域コーディネーター、地域教育協議会との連携)